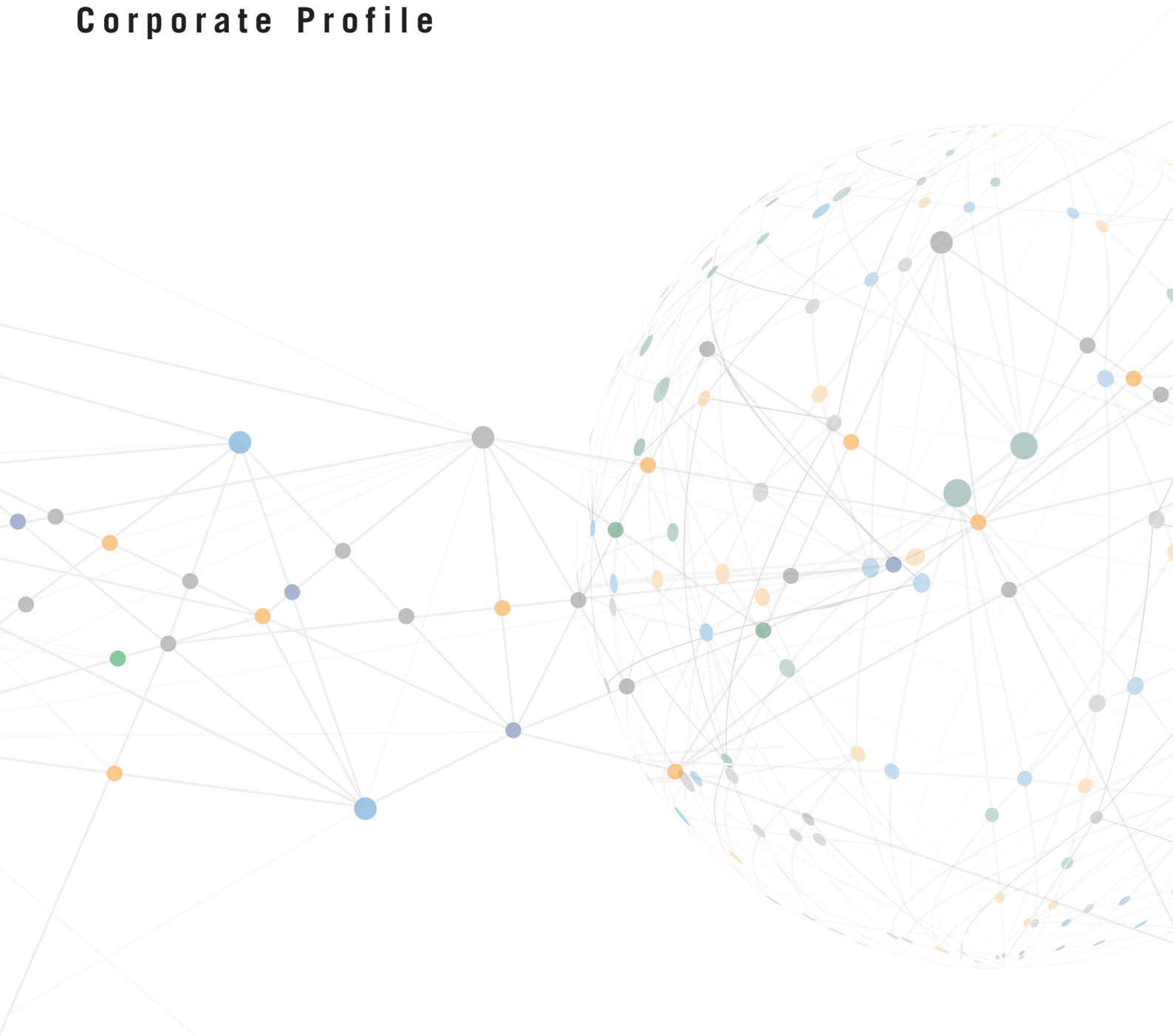


50<sup>th</sup>  
Anniversary



Corporate Profile



## 日本マイクロニクスは、QDCCSSをものづくりの指針としてより豊かで安心・安全な社会の実現に貢献してまいります。

### 半導体を支え続けて50年

私たちは様々なエレクトロニクス製品に囲まれて生活しています。特に近年はスマートフォンやタブレット端末などのコミュニケーションツールが進化し、人々が物理的な距離を意識することなく繋がりを持つようになりました。それを技術的に可能としたのはプロセッサ、メモリ、センサなどの半導体です。最近では自動車、工場設備、産業機器、家電などにも、より多種多様な半導体が搭載され、人工知能 (AI) や通信 (5G) 技術の発展と相まって人々の暮らしや産業のあり方を大きく変えようとしています。これに伴い、半導体の品質を支える検査の重要性も更に増していくと考えています。

日本マイクロニクスは、1970年の創業から現在まで、半導体やFPD (フラットパネルディスプレイ) など電子デバイスのテスト領域で、先進的な検査ソリューションを提案・提供し、着実な成長を遂げてきました。現在では、プローブカード分野で世界トップレベルの地位を確立するとともに、半導体・FPD関連装置においても付加価値の高い製品・サービスを提供しています。日本マイクロニクスの持続的な発展を牽引してきたもの、それは、「原理原則」を大切にす企業文化と、独自の総合管理システム「QDCCSS」(クダックス)の存在です。特にQDCCSSについては、品質、納期、コスト、法令遵守、サービス、安全という6つのテーマのもと、その改善・改革に継続的に取り組むことで、お客様の信頼を獲得してまいりました。今では企業文化の根幹をなすものとして、広く社員に浸透しています。

### 「MJC Future Vision」の実現を目指して

日本マイクロニクスは2017年11月、将来の「目指す姿」とそこに到達するための基本方針、重点施策をまとめた「MJC Future Vision」を策定・公表しました。目指す姿として、QDCCSSを更に推し進めて品質と納期での競争力を高め、市場へ安心・安全を提供することで『より豊かな社会の発展に貢献』することを掲げています。

これからも、「MJC Future Vision」の実現に向けてQDCCSSの一層の深化を図ると同時に、長い年月をかけて培ってきた高度な技術と知見を活かして、より豊かな社会の発展に貢献してまいります。



代表取締役社長  
長谷川 正義

## 経営理念

### 電子計測技術を通して広く社会に貢献する。

## 経営方針

1. 蓄積された技術と製造ノウハウを結集し、顧客に最高のベネフィットを提供する。
2. 常に技術開発に注力し、新技術の実現に努める。
3. 全社員が自己実現を図り、創造性豊かな企業文化を構築する。
4. QDCCSSの改善および改革にすべての社員の力を結集する。

## 行動指針

### 原理原則を大切にす。

新たな分野を切り拓き、発展していくためには、これまでの経験や常識、慣例などに囚われるのではなく、物事の本質を見据え、原理原則に基づいた判断、発想、行動をするよう心がけることが肝要である。また、人間として道徳、倫理を判断基準として行動することにより、人はどんな局面においても迷うことなく、うろたえることもない。

### 「観・感・勘」を大事にし、自己の能力開発を追求する。

製品や技術の開発に携わる人は日頃から、「物事をよく観察する」「観察から得られた感性、感動、感激を大事にする」ことを忘れてはならず、「観察、感動が勘を働かせ」、結果的に自己の能力が向上することに繋がる。

### 達成への5つのステップ「夢(needs)」「想定」「創意」「熱意」「実行」を確実に踏んでいく。

達成には「夢(needs)を叶えるために」「結果を想定し」「創意工夫をこらし」「熱意を持って励み」「継続的な実行努力をする」ことが最も重要である。

## MJC Future Vision

### 目指す姿

QDCCSSを更に推し進めて品質と納期での競争力を高め、市場へ安心・安全を提供する事で『より豊かな社会の発展に貢献』する。

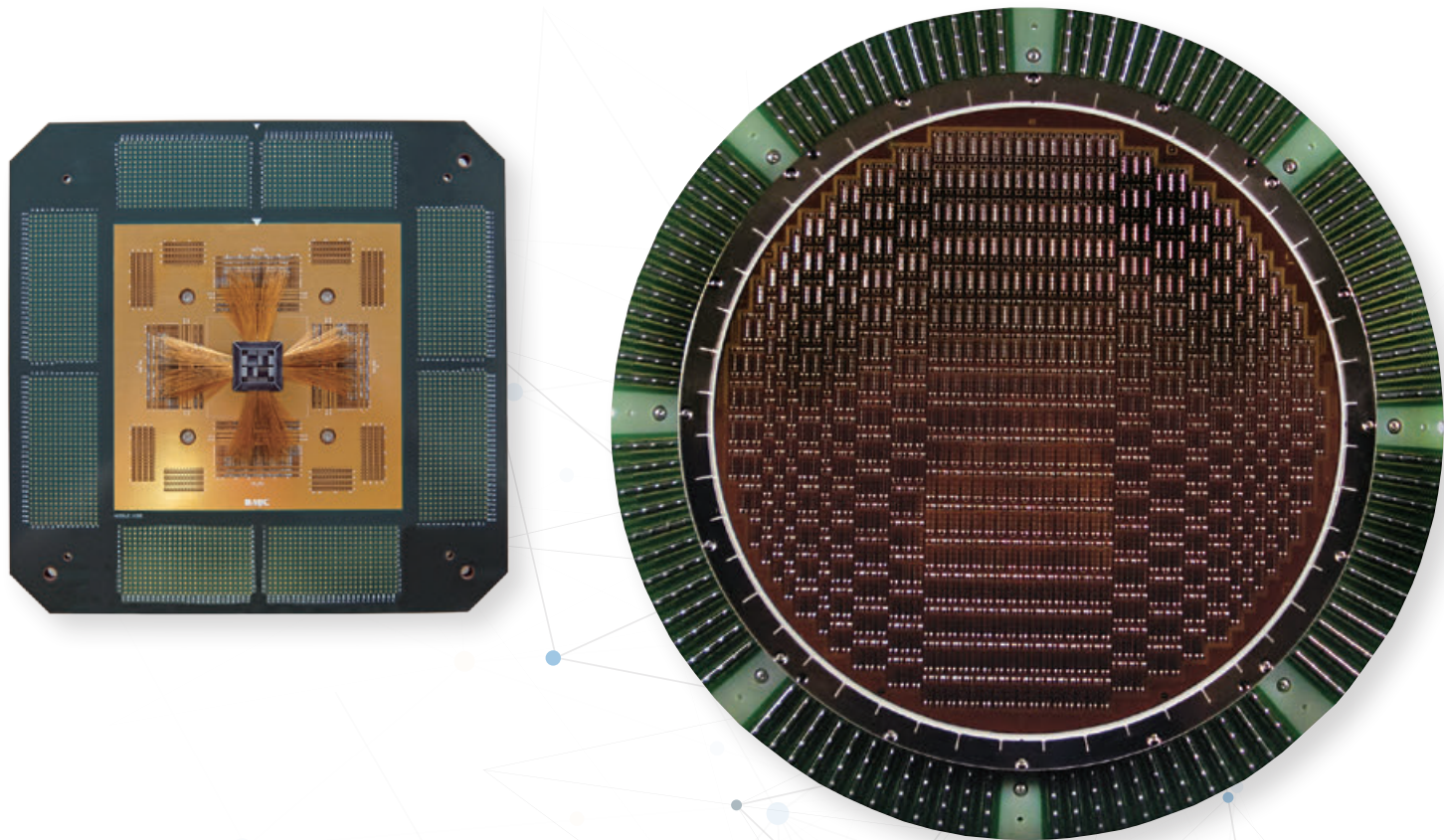
### 基本方針

1. リーディングカンパニーとして、常に技術革新に挑み、他の追随を許さない新たな価値を創造。
2. 顧客ニーズに即応した製品開発と、その拡販によって、市況の変化に左右されない安定収益を確保。
3. 新たな分野に向けた挑戦の継続。
4. 真のグローバルカンパニーに相応しい人材育成。

## 開発から資材調達、製造、管理までを独自ルールで展開



日本マイクロニクスは、お客様の信頼を得ることが大切との考えから、製品の開発から資材調達、製造、管理、システム構築のあらゆる段階において、独自の総合管理システムQDCCSS (呼称：クダックス) が定めた6つの活動テーマのもと、その改善および改革に取り組んでいます。

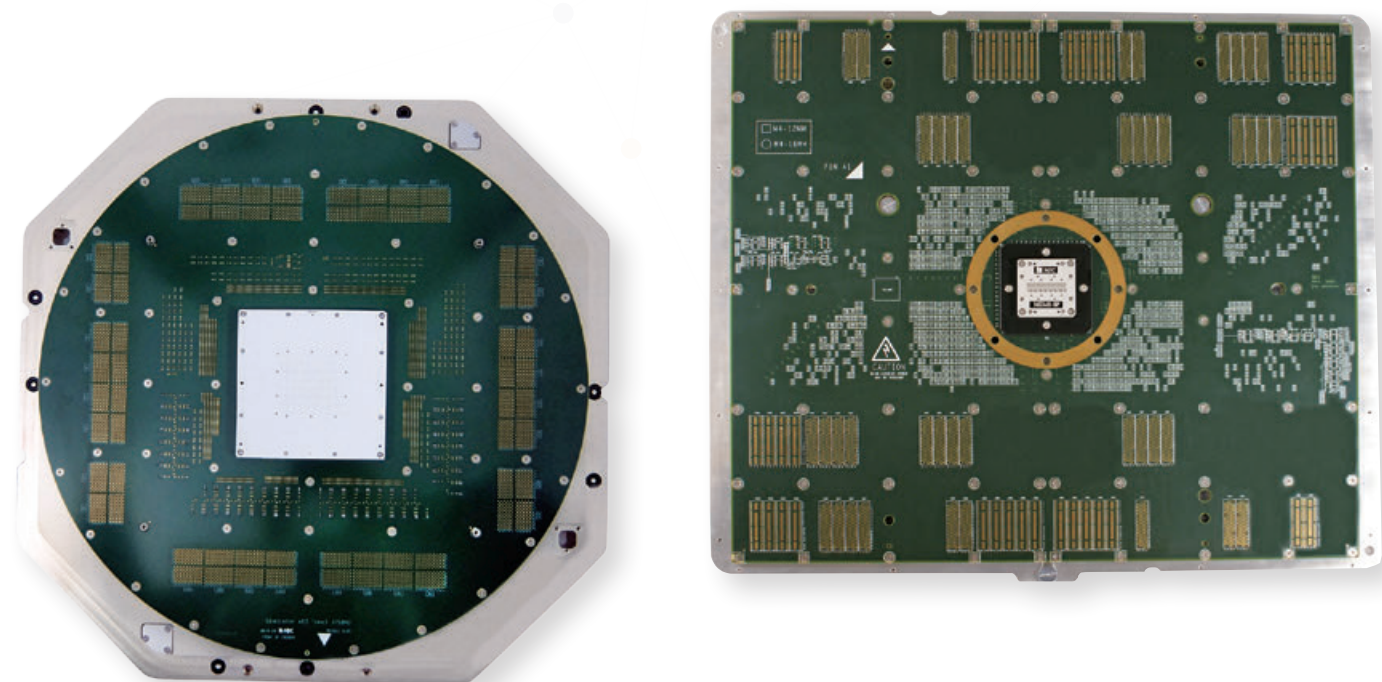
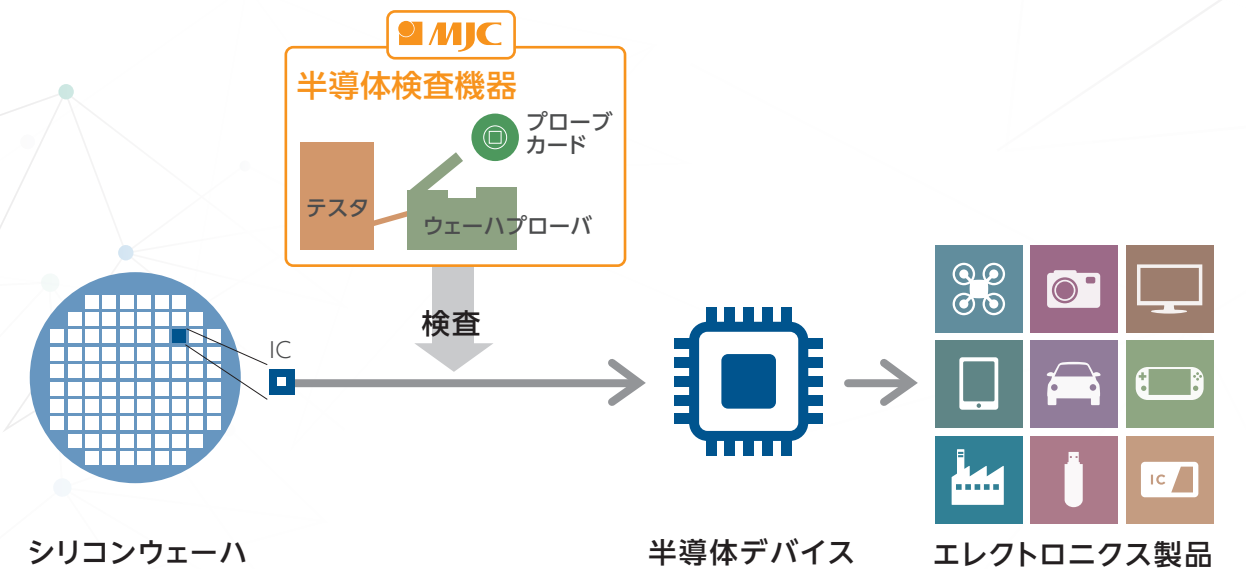


## 私たちは半導体・FPDの検査を通じ、 社会の安心・安全を支えています。

半導体は、スマートフォンや家電から自動車や公共インフラまで様々なものに組み込まれ、私たちの生活を支えています。こうしたエレクトロニクス製品に組み込まれた半導体は、すべて製造過程で検査・計測機器によるテストをクリアし、安全性や品質が保証されたものです。半導体に求められる能力や精度がますます高度化するなか、日本マイクロニクスは、今後もテストソリューションで安心・安全な社会を支え続けます。

## Probing the Future テストソリューションで 社会を支える

「Probing the Future」、それは未来を探ること。  
日本マイクロニクス（MJC）は、プロービング技術を駆使して半導体や液晶の検査・測定機器を開発・提供し、エレクトロニクス産業の発展と豊かな社会の実現に貢献してきました。  
「Probing the Future」には、コア技術である「Probing」のリーディングカンパニーとして、未来の技術・ニーズをいち早く探りたい、という想いを込めています。



歴史

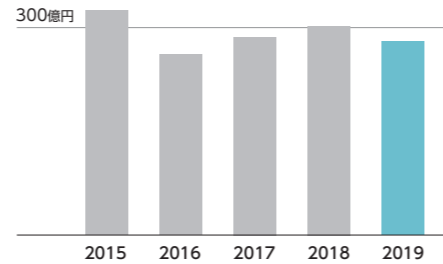
2020年で創業 **50** 年



エレクトロニクス製品の進化に伴い技術革新を続け、成長してきました。

売上高

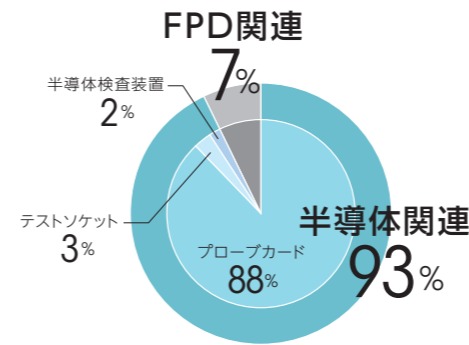
約 **300** 億円



メモリ向けプローブカードにおける優位性を維持しつつ、ロジック向けプローブカードや装置事業の業容拡大に取り組んでいます。

半導体関連製品売上比率

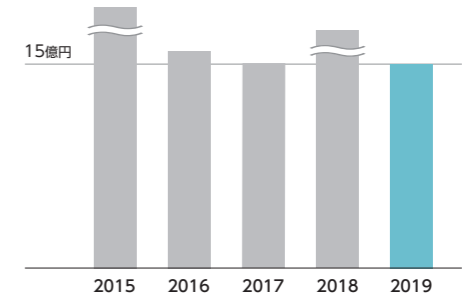
約 **90%**



プローブカードを中心に、半導体関連製品が売上の約90%を占めています。

営業利益

約 **15** 億円

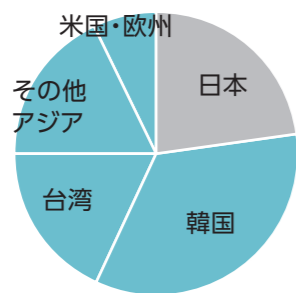


生産性向上やコストダウン等を推進し、市場変動にも左右されずに利益が出せる体制づくりを目指しています。

プローブカードのリーディングカンパニーとして

売上高海外比率

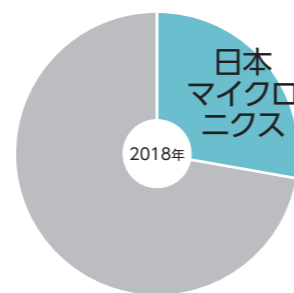
約 **75%**



多様化するニーズにMJCグループのネットワークで対応しています。

世界シェア

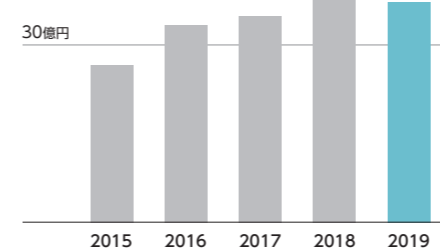
メモリ向けプローブカード **第1位**



プローブカードのリーディングカンパニーとして、製品の優位性を維持し、市場シェアをキープします。

研究開発費

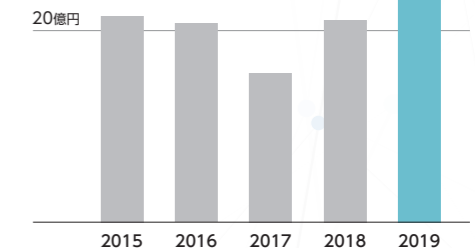
毎年約 **30** 億円超



コンスタントに売上高の約1割を研究開発に投資し、積極的に技術開発を行っています。

設備投資額

毎年約 **20** 億円



継続的な設備投資を行い、生産性の向上に努めています。

# 独創的な検査／計測技術が多彩な製品・ソリューションに結実しています。

## 半導体製造の多彩なニーズに応える最先端製品群

### 半導体 関連製品

ウェーハ上に形成された集積回路の良否判定を行うための検査装置プローブカードを主軸に様々な製品・ソリューションを展開しています。半導体デバイスの特性評価に使用されるウェーハプローバ、最終試験工程に必要なテストソケット、高機能かつコンパクトな半導体検査装置（テスト）をラインナップし、半導体の超微細化、低コスト化といった諸ニーズに、最先端の技術と万全の製品供給体制で応えています。

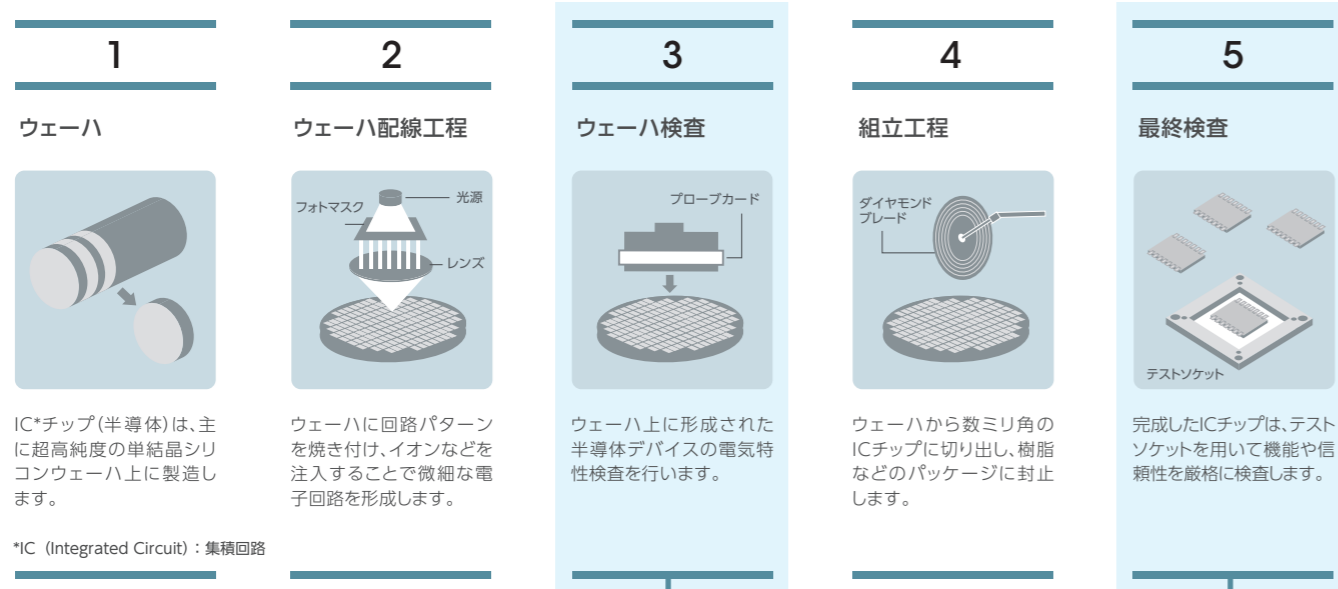
## 検査の自動化や品質・生産性向上に貢献するFPD関連装置

### FPD 関連製品

高い信頼性と安定した品質を誇る最先端のFPD\*1 検査ソリューションで、FPDの生産に関わる多様なニーズに対応しています。パネルにテスト用の電気信号を伝えるプローブユニットをはじめ、高解像度カメラで欠陥検出を行う自動光学検査装置、FPD/OLED\*2パネルの表示ムラを光学的手法で検出・補正するムラ検出・補正システムなど多彩な製品展開で、FPDの品質と生産性の向上に貢献しています。

\*1 FPD (Flat Panel Display) : フラットパネルディスプレイ  
\*2 OLED (Organic Light Emitting Diode) : 有機発光ダイオード

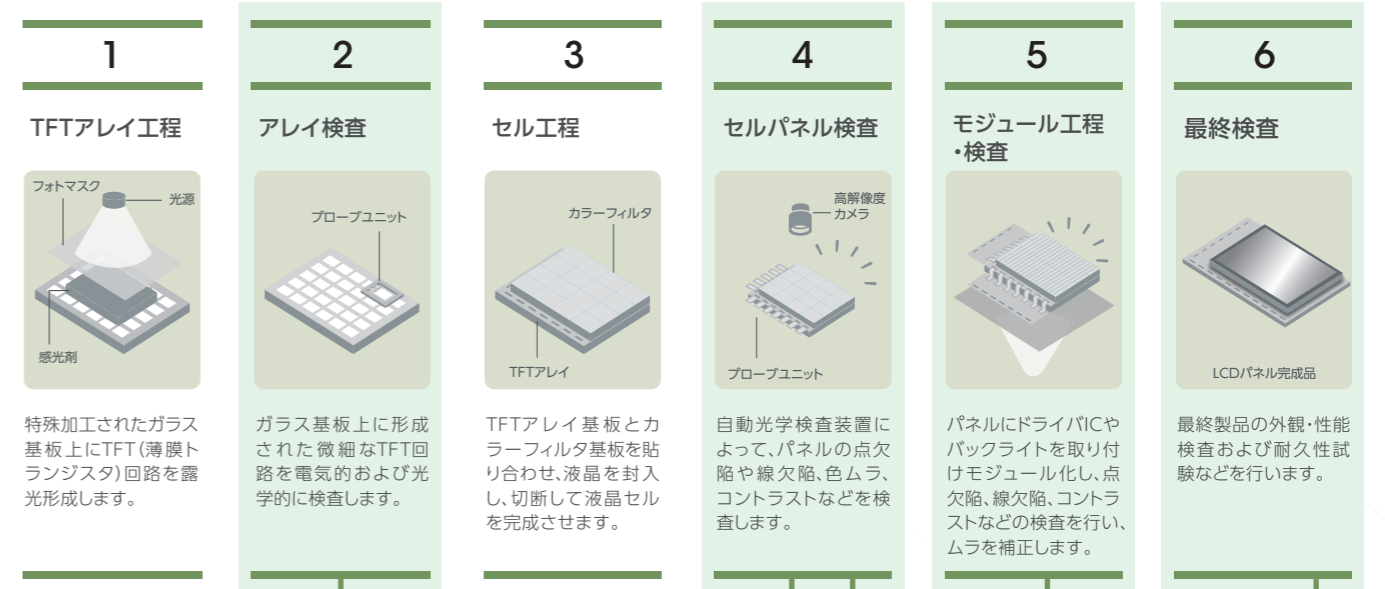
### 半導体製造プロセス



### 製品例



### FPD製造プロセス



### 製品例



※FPD用プローバ製品に関する技術ライセンスを台湾GPM社 (Gallant Precision Machining Co., Ltd.) へ供与しています。

# 独創的なテクノロジーで、経済と暮らしの発展を支えてきました。

# since 1970

1970年

シンクロスコープ、ファクシミリ、産業半導体、真空試験装置のメンテナンスを目的として、東京都にトーワ電気株式会社を設立。



1971年

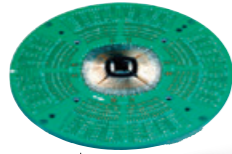
半導体を対象とした機器の研究開発を開始。

1975年

商号を株式会社日本マイクロニクスに変更。

1976年

プローブカード開発。



1970年代  
計測技術と微細加工技術への挑戦

1973年

半導体検査装置および精密測定機器の開発、販売を開始。



1977年

マニュアルプローバ1号機を完成。



1981年

青森県に平賀工場を開設。

1985年

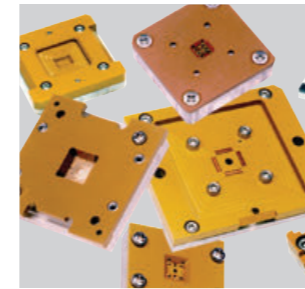
青森県に新平賀工場(現青森工場)を新設。

青森営業所を開設。

大分県に大分工場を新設。



液晶ディスプレイ検査装置1号機を完成。



1992年

パッケージプローブ開発に着手。

1990年代  
プロービング技術でグローバル企業へ

1997年

日本証券業協会に株式を店頭公開。

大分県に大分テクノロジーラボラトリーを開設。



1999年

米国カリフォルニア州に支店を開設。

2000年

青森県に青森松崎工場を開設。

2003年

中国上海市に子会社を設立。

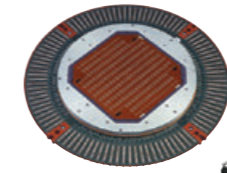
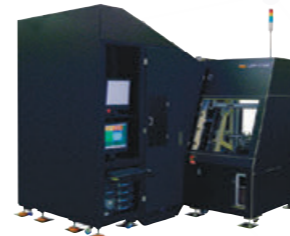
2000年代  
MEMS技術やシステム技術で新たな挑戦

2004年

台湾に子会社を設立。

ジャスダック証券取引所に上場。

液晶ディスプレイAOI装置を製品化。



2005年

世界初の8インチウェーハ一括測定プローブカードを製品化。

中国上海市に子会社を設立。

半導体BISTテストを製品化。

2006年

米国テキサス州に子会社を設立。

東京都に子会社 株式会社MJCテクノを設立。(2017年 吸収合併)

2007年

ドイツに子会社を設立。

2008年

韓国に子会社を設立。



2011年

中国江蘇省に子会社を設立。

2016年

シンガポールに子会社を設立。

2010年代  
強靱な企業体質を基盤に更なる成長へ

2010年

国内全拠点においてISO9001、ISO14001を認証取得。

2015年

東京証券取引所市場第一部に市場変更。



# お客さまにベネフィットをもたらす技術を 追求しています。

日本マイクロニクスは、要素技術の開発から主要な内製設備の設計・製造まで、自社内で手掛けています。半導体に求められる能力が高度化するなか、お客さまに最高のベネフィットを提供すべく技術の追求に力を注いでいます。

## 半導体の超微細化ニーズに応える独自のMEMS\*技術

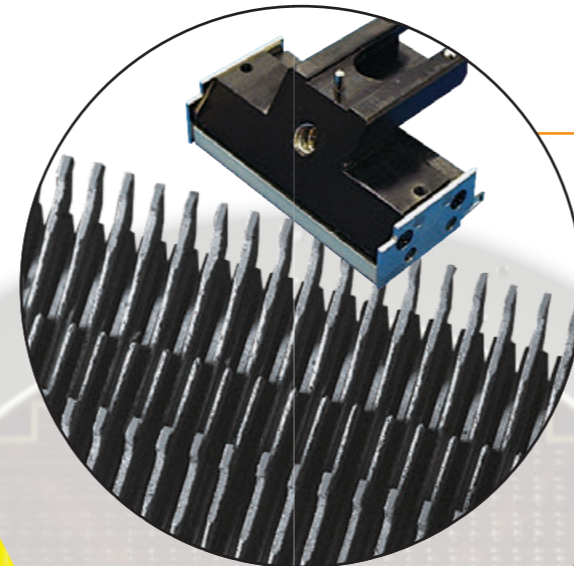
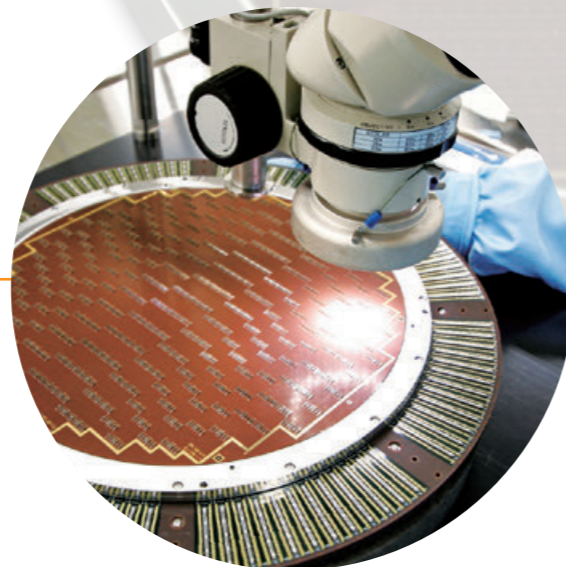
MEMSとは、シリコンや樹脂などの基板上に、センサ、アクチュエータ、電子回路などを集積化した極小のデバイスです。日本マイクロニクスは独自のMEMS技術を活用して、プローブカードの超微細なコンタクトとなるプローブ（探針）を製造しています。

\* Micro Electro Mechanical Systems（微小電気機械システム）



## 300mmウェーハの一括検査を実現した薄膜多層配線技術

セラミック薄膜多層配線基板は、セラミック基板上に微細な回路が形成された薄膜を積層したものです。大口径セラミックの焼成と、高密度の薄膜多層配線を自社で設計・製造することに成功し、開発困難と言われた300mmウェーハ一括測定プローブカードの製品化を、世界で初めて実現しました。



## コアコンピタンスはコンタクト技術

コンタクト技術とは、検査対象の微細な端子に均一かつ正確に接触し、計測器からのテスト信号を伝えて戻す技術です。プローブカードをはじめ、テストソケット、プローブユニット等は、この技術を活かした製品です。コンタクト技術は、日本マイクロニクスの持続的な成長を支えてきたコア技術なのです。

## 独自の生産技術で生産設備・プロセスを自社開発

日本マイクロニクスは、事業活動の基盤である主要な生産設備やプロセスを自社で開発・設計・製造しています。自社製造を行うことで、独自のアイデアを盛り込んだ革新的な生産方法で製造された製品をお客さまのもとに迅速にお届けすることが可能になりました。海外拠点にも国内で開発した内製設備を導入し、世界のどの顧客に対しても均一で高い品質の製品・サービスを提供しています。



## プローブカードの品質と進化を支える解析・評価技術

プローブおよびプローブカードの構造（デザイン）は、半導体の電気計測精度を左右する大切な要素です。日本マイクロニクスは長年にわたって磨いてきた経験と解析（コンピュータシミュレーション）技術を駆使して、製品の構造、伝送回路、試験環境を厳密に評価・検証し、製品の品質と性能の向上に役立てています。



ステークホルダーとともに

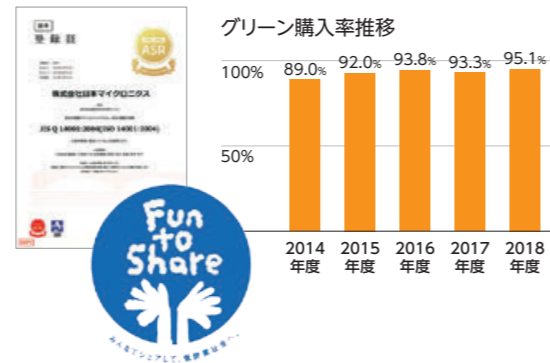
# 持続的な成長を可能にするために様々な活動を行っています。

## 環境

### 低炭素社会実現に向けた活動

日本マイクロニクスはISO14001に基づく「EMS（環境マネジメントシステム）」のもと、環境負荷の低減に向けた様々な活動を推進し、地球環境の保全に努めています。環境省が主導する気候変動キャンペーン「Fun to Share」にも参加し、低炭素社会の実現に向け資源およびエネルギー使用量の低減、廃棄物の削減、リサイクルの促進、化学物質の適正管理などの環境対策活動を継続的に進めています。

また、地球環境保護への取り組みとして、従業員の名刺に環境負荷の低い紙代替素材のLIMEX（ライメックス）を使用しています。LIMEXは石灰石が主成分で、製造時に水と木をほぼ使用しないため、名刺1箱（100枚）で10ℓの水を守ることができます。さらに、資材等の調達において、環境負荷の小さい物品を選択する「グリーン購入」にも積極的に取り組んでいます。



## 社会

### 多彩な活動を通じ地域社会と連携

企業が持続可能な存在であり続けるためには、生産拠点などが立地する各地域と協調・共生していくことが欠かせません。日本マイクロニクスは、様々な貢献活動を通じて、地域社会との連携を深めています。青森工場では社員ボランティアによる地域清掃活動により環境美化に寄与するほか、夏の風物詩平川ねぶたまつりに参加し、地域住民との交流を図っています。

また本社ならびに国内工場に「外国コイン募金箱」を設置し、海外出張者の手元に残る外貨の募金を呼びかけています。集められたコインはユニセフを通じて、開発途上国の子どもたちの支援に役立てられています。



地域清掃活動



平川ねぶたまつり

### コーポレートガバナンスとコンプライアンス体制

日本マイクロニクスはコーポレートガバナンスの充実に力を注いでいます。取締役と監査役については、経営体制のチェック機能を確保する目的から、社外取締役3名、社外監査役2名を選任しています。内部牽制組織としては、代表取締役社長直轄の独立組織として経営監査室を設置し、担当者6名を置いて監視・モニタリング活動を行っています。経営監査室は業務全般に関して法令の遵守状況や社内処理手続きについて内部監査を実施し、業務の改善に向けて具体的な助言・勧告を行っています。

日本マイクロニクスは引き続き、取締役会の機能強化を図るとともに、内部統制システムの整備やリスク管理体制の拡充に取り組み、意思決定の確信向上と経営の透明性確保に努めていきます。



### 人財育成とワーク・ライフ・バランスの推進

人財こそが会社の最大の資産であり、競争優位の源泉です。日本マイクロニクスは、人財教育として新入社員研修や技術研修会、グローバル人財育成を目的とした英語学習プログラム等、階層や業務の異なる社員全員が成長できる教育・研修制度を構築しています。さらに、定期的なキャリアプランアンケートや各部門における個人面談の実施により、常に適正な配置や、次世代を担う人財の輩出に努めています。

また、当社は人財である社員が安心して長く働き続けられるよう、ワークライフバランスの推進や、働きやすい環境作りに取り組んでおり、育児や介護を行う社員を支援する「育児・介護休職制度」や「短時間勤務制度」のほか、長期療養が必要となった際に失効年休を利用可能な制度、15年以上の長期勤務者に対するリフレッシュ休暇など、社員の様々なライフステージに応じた制度を設けています。



技術研修会

## ガバナンス

## 人財育成



# 国内6拠点、海外8拠点の広範なネットワークを確立しています。

**PC** PC事業(プローブカード、テストソケット)

**TE** TE事業(FPD検査機器、半導体テスタ、半導体プローバ)

## Europe

MJC Europe GmbH

**PC**

## China

昆山麦克芯微电子有限公司  
MJC Microelectronics  
(Kunshan) Co., Ltd.

**PC**

迈嘉路微电子(上海)有限公司  
CHINA MJC CO., LTD.

**TE**

## Korea

MEK Co., Ltd.

**PC TE**

## Japan

株式会社日本マイクロニクス

**PC TE**

営業所

青森営業所 熊本営業所  
大分営業所 関西出張所

工場・研究所

青森工場  
青森松崎工場  
大分テクノロジーラボラトリー

## North America

MJC Electronics Corporation:  
Head Office

**PC**

MJC Electronics Corporation:  
California Branch

**PC**

## Taiwan

美科樂電子股份有限公司  
Taiwan MJC Co., Ltd.

**PC TE**

## Southeast Asia

MJC Electronics Asia Pte. Ltd.

**PC**

### 株式会社日本マイクロニクス 事業所一覧

#### 本社・営業所

##### 本社

〒180-8508 東京都武蔵野市吉祥寺本町2-6-8  
TEL:0422-21-2665(代表) FAX:0422-21-9383

##### 青森営業所

〒036-0114 青森県平川市町居南田571-2  
TEL:0172-44-8546 FAX:0172-43-1015

##### 大分営業所

〒870-1117 大分県大分市高江西2-5-1  
TEL:097-596-7703 FAX:097-596-6093

##### 熊本営業所

〒862-0954 熊本県熊本市中央区神水1-8-8 フォレストビル401  
TEL:096-213-7770 FAX:096-213-7769

##### 関西出張所

〒652-0804 兵庫県神戸市兵庫区塚本通6-2-14 二川ビル301  
TEL:078-579-9590 FAX:078-579-9591

#### 工場・研究所

##### 青森工場

〒036-0114 青森県平川市町居南田571-2  
TEL:0172-44-7277(代表) FAX:0172-44-7278

##### 青森松崎工場

〒036-0164 青森県平川市松崎西田41-1  
TEL:0172-43-0060(代表) FAX:0172-44-1811

##### 大分テクノロジーラボラトリー

〒870-1117 大分県大分市高江西2-5-1  
TEL:097-596-7220(代表) FAX:097-596-7232

### グループ会社

#### 米国

MJC Electronics Corporation

Head Office: 11004 Metric Blvd. Austin, TX 78758, U.S.A.  
California Branch: 2336-A Walsh Avenue Santa Clara, CA 95051, U.S.A.

#### ドイツ

MJC Europe GmbH

Carl-von-linde-Str.10, 85716 Unterschleissheim, Germany

#### 韓国

MEK Co., Ltd.

68, Samjak-ro 143-gil, Ojeong-gu, Bucheon-si, Gyeonggi-do 14452, Republic of Korea

#### 中国

MJC Microelectronics (Kunshan) Co., Ltd.

No.6 Dexin Road, Zhangpu Town, Kunshan City, Jiangsu Province, 215321, China

CHINA MJC CO., LTD.

701 Room, 7th Floor, No.1733, Lianhua Road, Minghang District, Shanghai, 201103, China

#### 台湾

Taiwan MJC Co., Ltd.

No.36, Sec. 2, Huanbei Rd., Zhubei City, Hsinchu County 302, Taiwan

#### シンガポール

MJC Electronics Asia Pte. Ltd.

60 Paya Lebar Road #10-54 Paya Lebar Square, Singapore 409051



商号 株式会社日本マイクロニクス  
MICRONICS JAPAN CO., LTD.

設立 1970年11月2日

本社所在地 〒180-8508  
東京都武蔵野市吉祥寺本町2-6-8  
TEL.0422-21-2665 (代表)

資本金 5,018百万円

従業員数 1,140名

グループ従業員数 1,456名

事業内容 半導体計測器具、半導体・LCD  
検査機器等の開発・製造・販売

(2019年9月30日現在)



[www.mjc.co.jp](http://www.mjc.co.jp)



この冊子の印刷・製本に係るCO<sub>2</sub>は  
PROJECT- With the Earth を  
通じてオフセット (相殺) しています。

